

第9回 旧本庁舎等跡地活用に関する専門家委員会（議事概要）

- 1 日 時 令和3年8月26日（木）午前10時～11時30分
- 2 場 所 市役所本庁舎7階 全員協議会室
- 3 出席者 （1）委員（Web会議1名）
柳委員長、福山副委員長、飯野委員、木田委員、堤委員（Web会議）、湯口委員
（2）事務局
高橋企画推進部長、河井経営統轄監、渡邊次長兼政策企画課長、平田政策企画課課長補佐

4 内 容

●委員長挨拶

市民アンケートの結果をまとめていただいている。比較・評価をして活用策を絞り込むので議論をよろしく願います。

（1）「一定の方向性」を示すまでの手順について

○委 員 これは行程表。それでは各角度からまとめたアンケート調査の結果説明をお願いします。

（2）市民アンケートについて

○委 員 アンケート調査結果を多方面からまとめていただいた。P2の活用策については%で示していただいている。どのニーズが多いか分かるし、広場中心か建物中心かもまとめてある。P10をクロスしながら考えていただければいいと思う。

○委 員 アンケート自体は結果なので質問はない。若者の方が建物・施設がほしい傾向が高いとあったが、施設を作るのは、総量削減の観点から正直あまり望ましくない。作る方向で考える必要はない。既存の施設の使い方を考える必要がある。例えば学習スペースは、どこでも使える、特別な設備は必要ないと思う。アンケート結果を踏まえて跡地利用の話だけではなく、他の施設についても使い方を考えてみる。高齢者等年代別に制限がかかっている施設を、市民全員が使える使い方を考えていく必要がある。若者の建物が足りないと言っているのは解決できる問題だと考えている。

○委 員 他の施設、例えば市役所本庁舎の施設を有効利用するとか、そういう考えも踏まえながら、活用策を考えたらどうかという話だった。

○委 員 アンケートの結果は結果として受け取る必要があるが、そのあと我々として、これをどう読み解いていくか、あるいは、実際に今後、市の提案としてどのような形で市民に提示するかを議論する必要がある。委員から既存の施設の利用という観点も含めて絞り込みをしてみるという話があった。例えばP2の防災関係では、いくつかにまたがって回答がある。答えをまとめることができるような回答もあると思うので、絞り込みをする中で、選択肢を提示できるような作業が我々にとって必要になると思う。

○委 員 確認する。今回、最終的に報告書を提出するが、そもそも何か新しく建物を建てるという前提ではない提案もあり得るのか。もし新しく建物を建てるという前提でいった場合、今回の専門家委員会最終的に活用策の方向性を出すことは理解しているが、今後、民間事業者等にサウンディング調査を行うことになると思う。その際、要件として外せないポイント・条件も伺いたいと思った。アンケートの自由記載の中に、活用に関して要件・要望、いろいろな意見が出ている中で、どこまで要件を組み込んでいくのか気になった。活用策を最終に絞り込んでいくと、相当大まかな方向性にしかならないと思うので、そこをどれぐらい肉付けしていく余地が

あるのか、あるいは、していく必要があるのかを議論できればと思った。

○委員 もう少し議論を重ねたらどうかという話だった。

○委員 質問はない。この結果を見た感想。これがもし3~5年前だったらこういう形じゃなかったかもしれないと思った。PDCAでいうと、チェック・改善のいいきっかけになる意見がたくさんある。その視点も拾って活用する部分もそうだが、しないところにフォーカスした対応も大事。

○委員 アンケートの結果は結果なので参考にする。思った以上に、建物、屋根が必要であるというイメージを皆さん持っている。雨・雪を意識した活用というのはある。

○委員 建物を中心に、広場を中心とあるが、建物がどれぐらいの比率なのかイメージがなかなか分からないが、方向が決まれば、運用面で住民ニーズを反映した比率になってくると思う。あと、震災時の拠点が1番多かったことを考えれば、建物がなければ水・食料が供給できない。防災・減災機能がベーシックになっているので、建物がゼロは多分考えられない。結果について質問がなければ次に進めたい。

●事務局 委員の質問に答えたいと思う。まず報告書の件。建物を建てるということが前提ではない。このアンケートも踏まえた委員の議論の中で、建物になることはあるし、公園的な使い方になることもあるので委員の意見をいただきたいと考えている。手法について、報告書の中で触れていただくことはあると思う。民間の手法を活用しながら、運営・管理というような、附帯意見も入ってくると思っているので、そういったことも、この委員会で話をさせていただければいいと思う。実際、我々が意見をいただきながら、今後、活用するときに参考にしながら運営していくというふうに考えている。

(3) 活用案の比較・評価について

○委員 比較・評価項目について、ポイントが2つある。1つは、その他を入れて21ある活用策を絞り込むこと。これをいくつまで絞り込んで評価表に落とし込むのか。2点目は、評価項目は十分なのかまとめた方がいいのか、議論をしていただきたいと思う。

○委員 この評価方法はいわゆるプロポーザルの評価方法に近い。アンケート結果を見ると、⑬が最も多いということで、オープンスペースについては、この委員会でも防災機能を備えた広場は合意が得られていると思うので議論する必要は無く、前提でスタートしていくものと考えている。P3上のグラフ。B医療・福祉・健康増進とD娯楽・レジャーは他と比べるとかなり少ない。多い少ないで評価していいかどうかはあるが、市民が求めている活用策として優先順位は下がる。BとDは民間に整備してもらうのが前提にすればいいので、議論する必要は無い。となると今回、議論・評価したいのは、A教育・学習・文化・芸術とC憩いの場・コミュニティ。多いのは④、⑥、⑪、⑫ということになる。上位5つ、もしくは全体上位5つくらい。実質、検討するのは3つか4つくらいだと思うが、これは議論していただければと思う。AとCを中心にいくつかピックアップして評価を見ていく流れ。AとCから2つずつ取り上げれば良いという気がした。今回議論するのは、主機能、メインの機能を整理。少ない方は、作らない・整理しないではなく、サブ機能として整備の検討を行うことにする。今回の委員会では、主機能を検討するというので、AとCを検討することでいいと思う。

○委員 Eオープンスペースはコンセンサスが得られているので整備する。それにAとCを付け加えるという話だった。

○委員 委員の言われる点も分からないわけではないが、例えば、Eオープンスペースを前提としたときに、AとCの中からそれと整合性がとれているものがあるかどうか、我々の方から発想して、評価をするというふうに考えるのか。AとCの中には、Eとは相容れないような要素もある。そのところを、この委員会としては、どちらを考えるのか先に決めておかないと議論が進まないのかなという気がするがいかか。

○委員 その通りだと思うが、見た感じ決定的に相容れないものはなさそうだが、相容れないものを議

論しておいた方がいい。

- 委員 今の作業をここでしていくと、1つないし2つぐらいの案に、この委員会として方向性を絞ってしまわないかなという気がしている。
- 委員 例えば、オープンスペースを前提として、多目的ホールを併設すると相容れない。多目的ホールが小さくなる。A・C・Eから1つずつ選んで、機能を3つに絞る。BとDは評価表から落としてもいいと思う。3つから活用策を絞るという話も考えられる。
- 委員 今の委員の提案がむしろいいかなと思う。今回は、BとDを除く形で、A・C・Eの中で、どれを選択するかというやり方が、今の段階ではいいのかなと思う。
- 委員 A・C・Eで絞り込むということではいかがか。P2の活用策のうち%で選ぶのか、そうじゃなく別の方向性から選ぶのか。例えば、市民ギャラリーと多目的ホールは使い方によっては1つになる。若者の学習拠点は1つだと思う。歴史・文化の発信の場と美術館は1つかも知れないので議論していただければと思う。AとCとEから選ぶということ。その中で活用策がAは9つある。そこから絞り込むのがいいのかグルーピングして絞り込んだ方がいいのかといういろいろあると思う。
- 委員 組み合わせができるということは考えているが、逆に言うと、先ほど、説明したように主と副という位置付けであれば、当然この副は取り上げればいい。今回は議論する時間があまりなく細かい議論はできない。アンケート結果が出ているので、2つもしくは3つぐらいの活用策だろうと。A・C・Eから2つずつぐらい取り上げて議論する。アンケートの結果に対してきちんと答えるなら、まずは多い方から選ばないといけない。
- 委員 多い方からというのは一つの意見だとは思う。例えば、Aのところでは⑥多目的ホール。2番目が、④市営駐車場に併設した避難所生活体験施設とある。例えば、極端なことを言うと、④は⑩とほぼ一緒の発想。Aでは、⑥が1つ。もう1つは②と関連するものを1つというやり方だと評価する方も評価しやすい。同じことをCでもやるというやり方ではいかがか。
- 委員 多目的ホールに、学習の場を付加する。まとめやすいのは、憩いの場で⑪と⑫は、結局、自由に使える屋内施設ということ。情報発信も1つにまとめられる。
- 委員 異論はない。C⑪もA②とニュアンス的には近いのでまとめてもいい。
- 委員 これをいただいたとき、まとめるという発想は頭になく、単純にこのアンケート項目のまま多い順でいいと思っている。組み合わせは無限にある。せっかく市民の方に聞いたままの活用策で、委員が言われたように、Aから2つとか多い順にやる方がやりやすいと思っている。
- 委員 委員と同じく、この資料を見たとき、まとめていくイメージは持っていなくて、どういうふうを選択肢を見やすくするのかという感じだった。今まで機能と活用策を選択肢として決めてアンケートを取って、出た結果に対して、また項目を超えてまとめるというのは、抵抗がある。あるとすれば結果の数値をもって大きくまとめる。例えば、全体の10%以上の回答が得られているものは無視できない、着目すべき。例えば10%になることに着目すると、⑦・⑧・⑨はある程度の規模で実現できるようなアクティビティとして10%になるという形で1つずつ見ていく。項目は超えない方がいいという印象。
- 委員 大胆な言い方をすれば、⑥多目的ホールの人数が一番多いので、Aからは⑥多目的ホール。CとEからはどれかにする。報告書を作る時、附帯意見として⑥多目的ホールについてはこういうことを考えて欲しいというように、報告書で提言するのは一つの方法だと思う。評価項目についてはまとめないで、我々が議論したことを報告書の中で提言する方向で絞り込んではどうか。人数・%の多いものに絞って、3つか4つに絞り込める。絞り込みについてグラフを見ると、一番多いのが⑩。その次が⑪、⑫。Aから1つと、Cから2つと、Eから1つと、4つぐらいに絞り込めると思う。要するに上から順番に絞り込んではいかがか。
- 委員 先ほど委員が言われたように、報告書の附帯意見として、「十分幅広の機能を持たせる」ということを明記していただければ問題ないと思う。

- 委員 委員が言われたように、絞り込みをやめて、附帯意見のところを書く。評価項目4つということでもいいか。1つ目は⑥。2つ目は⑩と⑪。最後は⑬。ということで4つに絞り込むということでもいいか。次は、評価項目、評価基準。大項目4の市の基本計画との整合性のところに、「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」を追加してほしい。
- 委員 ⑦経済性と⑧収益性の違いがわからない。
- 事務局 少し抽象的な部分がある。⑦経済性は、財政負担を少なくするという。イニシャルコスト、ランニングコストがかからない観点。⑧収益性については、設置後に例えば税金が期待できるとか利用料等も含めて収益増加が期待できる施設であるかどうかの観点で整理をした。
- 委員 ⑦と⑧は一緒だと思う。
- 委員 イニシャルコストが少なくてもランニングコストがかかれば一緒。⑦と⑧をまとめてもらいたい。
- 委員 大項目1の公共性はとても重要な言葉であるが、基本的には当然のこと。あまり公平性に固執すると非常に利用がしにくい。逆にそれが制限になってしまうことがある。ある程度、不足している機能を補うことが、今回の大事な論点の一つになっている。もし本当にそのサービスが必要であるならば、市民の特定の人かもしれないけども、特定のときかもしれないけども、必要であるならば、それをやらなければいけない。公共性、あるいは公平性に極端にこだわるのは、あまり好きではない。その辺は皆さんの判断に任せるが、あまり強調しすぎない方がいいと思う。「全市民が利用することができる」くらいがいい。
- 委員 今のお話は①と②の小項目に分けず、「全市民が利用できる活用」とまとめるということ。
- 委員 ①から⑫の評価は、フラットに横並びで見ればいいのか、ある程度、係数・軽重・プライオリティを付けたりするのか。
- 委員 強弱をつけるかという話。
- 事務局 この評価項目については、重点配分とかは行わず、フラットに検討していきたいと考えている。
- 委員 多分、活用策を絞り込んだ時、市としてそういうところを考えながらやるんだと思う。今回はフラットで。
- 委員 本来、評価方法を決定してから、皆さんで点数を付けて合計値の高いものを選ぶという手法が一般的。今回は評価表を作って、そのまま上から決定という訳ではなく、それを参考に次回議論する位置付けだと認識している。①と②の違いは分かりにくいですが、この項目で確認したということであればこれでもいい。
- 委員 これはプロポーザルのように点数をつけて決めるものではなく、参考にして市の方向性を決めるということなのでフラットでやるということだと思う。
- 委員 例えばA⑥多目的ホールについて上から順番に○△×を付けるということ。そのとき主観が入る。全部期待できると言えば期待できるし、やり方次第で期待できることもあるし期待できないこともある。結構困ったなと思っているところ。
- 委員 市の評価基準の考え方を説明してほしい。
- 事務局 難しい質問。皆さん、専門家委員ということで各分野での知見を持っておられる。委員の知見を持って、○△×をつけていただくということになる。その中で、同じ施設を作るにしても、経済的な部分を我々は示していないので、それをどう考えるのかとなると、一つ一つを見れば確かにすごく難しい評価になってくる。ただ、そういった中で、各1個1個の質問を客観的に想像・想定していただきながら、○△×をつけていただき総合的な評価をしていただいた上で、また議論することを考えている。確かに1個1個考えると、どういったことを想定するのか示していない部分ではあるが評価をお願いしたい。
- 委員 例えば、財政負担であれば、規模とか人口動態等を考えて一般的な話として評価して欲しいということだと思う。

- 委員 明らかに×は分かる。やってみる。
- 委員 この評価項目で評価をして、まとめ方と報告書への反映の仕方について。プロポーザルだと非常にシンプルで、普通、点数化して足し算をしてまとめる。ここでは、それぞれ評価したのを持ち寄って、意見が違う場合は議論して一つにまとめていくのか、その辺はどういうイメージで評価していくのか。
- 委員 最終的に報告書に1つにするのか2つにするのか決まっていない。場合によっては2つ、3つになる。価値観の違い等で1つにまとめるのが難しければ、報告書に複数の活用策の提案をして、それについての方向性を市が考えるということだと思う。
- 事務局 最終的に報告書の中で、1つに決めないといけないというわけではなく、2つになることもあると考えている。持ち寄っていただいた評価項目を示し、意見をいただきながら、その場で、1つにまとめる必要はないのかもしれない。例えば、1つの項目は全部○というまとめ方にしなくてもいいが、最終的には、この施設という形で、報告書の方には、1つの活用策であるとか2つの活用策にまとめていただければ、いいのかなと考えている。
- 委員 この評価項目については、皆さんが○△×をどういうふう考えたのか次回議論する。報告書については1つにまとめられなければ、いくつか提案が入ってきて、市民の方に十分説明して、市が方向性を決めるというふうになっていくと思う。
- 委員 確認。この委員会で1つとか2つとかまとめた活用策を市は受け取って大丈夫か。私のイメージは、アンケートと専門家委員会各委員がアンケート結果を見て温度差を解釈してメニューとして提供するイメージを持っていた。当然その中で取捨選択は入ってくると思う。専門家委員会の答申として、答えとして出てくるというものを作るというイメージを持った方がいいか。
- 事務局 報告書については次の議題になるかも知れないが、鳥取市としてはやはり候補の数は少ない方がありがたいのはありがたい。この会で絞って決めていただいたものをそのまま鳥取市の方向性とするのではないと、今まで話してきている。活用策は1つということではなく、それは今、委員が言われたように、アンケートとかこういった議論でこういうふうな方向性、またこういったことも必要、また附帯意見で記載していただく、それをまとめていただいた報告書で判断をさせていただくということだと思うので、委員の言うておられることとそう違わないのかなというふうに思う。
- 委員 わかった。1つに絞るけども附帯意見をつけるということか。
- 事務局 1つに絞ってくださいということではない。
- 委員 この会の立ち位置としてあくまで最終決定は市だと思う。市の意思決定をサポートするための機関だと思うので、ある程度、方向性の絞り込みを行うものの、それはあくまで意思決定を行うための情報であって、ここで何かを決めるというものではないという理解でいいか。
- 事務局 その理解でいい。
- 委員 報告書を受けてそれを参考に方向性を決めるということ。評価項目は、①と②、⑦と⑧をまとめられたらどうかということ。付け加えてほしいのは、市の基本計画との整合性はどうかということ。「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」についても評価してほしい。評価項目に付け加えたらどうかという意見はあるか。
- 委員 評価項目に空欄を作ってはどうか。
- 委員 空欄を作ると他の委員が評価できない。今日の結果を踏まえて、いつ頃、委員へ配布するか。
- 事務局 できるだけ早めに送付する。遅くとも明日の午前中には届ける。
- 委員 議論するのは、9/2(木)だから、市の作業を考えれば火曜日か水曜日か。
- 事務局 **資料1** をご覧いただければと思う。ある程度、今日、議論いただいた内容をイメージしていただきながら比較評価を始めていただき、市が送付した比較・評価項目を8/31(火)を目途に提出していただければ、次の委員会にはまとめたものを用意できる。
- 委員 活用策をさきほど4つ示した。それとも、トップファイブできりのいい5つか。

- 委員 最終的な報告書でどういう提案をするのかということを考えながら話を聞いていた。4つでも5つでもいい。大事なことは、それぞれの活用策を評価基準に照らしたとき、それぞれの案がどういうところに優位性があるが、どういうところに課題を持っているか、を一つ一つにこの専門家委員会が出す形で最終的なまとめになるとイメージしたが、その認識でいいか。
- 委員 それでいい。評価項目について委員の意見を聞いてそれをまとめる。
- 委員 順位をつけて決めるわけではなく、せっかくアンケート、これまでの検討を通じて、4つぐらいの項目に絞られた。それに対して、我々委員としてどう評価をするのかという認識でいいか。
- 委員 そのとおり。報告書はこれと決め付けるのではなく、委員会の意向を反映させるということ。プロポーザルでこれを採用しましょうということではない。
- 委員 それであれば大丈夫。
- 委員 今のような評価方法でいいか。委員の意見を集約・議論してその結果を報告書にまとめる。報告書で委員会の意向をまとめる。
- 委員 今回のアンケートの結果を受けて、案に対しこういうところに注意してほしい、こういうところに期待するという整理になる。順位をつける方向性ではないと考えている。
- 委員 4つでも5つでもいいということ。⑥、⑪、⑫、⑲の4つで比較検討したらどうか。
- 委員 委員が言われた何%以上の活用策を比較する話はどうだったか。
- 委員 今はトップ4。A・C・Eから活用策を選ぶ。Cは2つある。結局%で選んだということ
- 事務局 上位という考え方で選んだ場合、⑮イベント広場が126人。数字だけ見れば、⑥多目的ホールより多い。どう整理すればいいか。
- 委員 まず機能として考える。機能の中で大きいものを選んだということ。⑮と⑲の2つを選ぶのか。
- 委員 ⑮に関しては⑲の中に十分、内包されると思う。
- 委員 ⑮を別に分ける必要がないと思う。最終的な段階になってきた。次回、評価項目について議論する。活用策が決まってない段階で一般的な話で優劣をつけるのは難しいが、皆さんの経験を生かしてやっていただければと思う。付け加える項目があれば言っていただく。市から評価表が送付される。8/31(火)が期限ということでよろしく願います。

(4) 旧本庁舎跡地活用に関する報告書について

- 委員 報告書は中身をまた検討していただく。(3)で皆さんの意見をまとめて、附帯意見としては例えば他の施設の有効利用を考える等を意見として記載する。

その他

- 事務局 改めて、資料1で日程の最終確認をする。比較・評価を8/26から8/31に行っていたら、9/2に第10回専門家委員会で比較評価したものを議論いただきたい。報告書に記載すべき事項等についても、第10回専門家委員会で議論したい。
- 委員 この報告書の案ができたなら、そのとき、また議論していただければと思う。報告書については次回、項目や方向性を考えて、市で作られてもう一度フィードバックしていただけるので意見をいただければと思う。評価項目の大項目・小項目に「ひとづくり」、「まちづくり」、「しごとづくり」を追加してほしい。他に追加すべき大項目・小項目があれば願います。